「安全会報」　松山市シルバー人材センター　平成30年5月発行

「安全の確保は最優先」　安全=自己管理

事故が発生しています。⇒　「ゼロ」にしたい。

年度	件数	ケガ	物を壊した。	交通事故	その他
２６	**２４**	８	１４	２	０
２７	**２２**	１３	４	４	１
２８	**２５**	１０	５	１０	０
２９	**２３**	１１	５	６	１

自転車用ヘルメットかぶりましょう

平成２９年度　安全スローガン　県連合会佳作入選

【作業前　急ぐ心にもう一度　安全確認確実に】

松下晴一

平成３０年度から実施します。

◎事故を起こした人には、その後の安全対策をどうしているか報告を求めます。

◎事故を起こした人は、安全講習会に出席していただきます。（予定）

松山市シルバー人材センター　安全・適正就業委員会　委員

委員長	土居園江	委員	松浦　隆	委員	吉村タツミ
副委員長	中野村吉	委員	松下晴一	委員	青野武敏
委員	正岡イチ子	委員	山田與利男	委員	矢野英輝
委員	近藤幸子	委員	六車正平	委員	福山忠道

「　安全　だより　」

松山市シルバー人材センター　安全・適正就業委員会

了解しました。

安全が最優先

作業前　急ぐ心に
もう一度
安全確認　確実に

健康管理も大切です。

昨年度２３件発生しました。

今年は事故ゼロ

ケガするなよ

松山市シルバー人材センター　剪定班関係　　平成２９度に発生した事故

【作業前　急ぐ心にもう一度　安全確認確実に】

事例①　チェンソーで高木を切り下げていた。押し倒すはずの枝が作業員の方向に覆いかぶさってきた。
その時、作業員がバランスを崩し、脚立から地面に落ちた。右足指３本骨折。全治２か月。

原　因　枝(幹)の大きさを小さく見込んでいた。枝が倒れる方向が予測と違った。発生する危険予知の把握不足。

対　策　**枝にロープ等を巻き、引っ張り役を置くなど、２人以上で作業を行う。**
現場の状況を事前に十分把握し、必要とされる安全対策を取る。

事例②　作業現場に向かう途中、交差点を右折した時、左車線にいた車と接触した。

原　因　走行時の前後左右の安全確認不足。

対　策　**特に交差点では左右前後を確認し、走行する。**

事例③　脚立を用いて高木を切っていた時、切った枝が脚立に当たった。その反動で体のバランスを崩した。
作業員が脚立から降りようとした時、脚立の最後の一段から落下。後ろ向きで倒れる際、作業員の頭が
ブラインド式雨戸に当たり、雨戸を破損した。

原　因　脚立を樹木にロープ等で固定していなかった。脚立を地面に固定していなかった。家屋と脚立の距離の確認不足。

対　策　**脚立を地面にシッカリ固定する。安全な作業床を確保する。会員間で予測される事故を共通認識する。**
降りる時注意をする。

事例４　剪定作業に伴い、脚立を移動した際、鶴の置物の首部分に脚立が当たり、鶴の置物を破損した。

原　因　事前に移動が必要なもの、シートで覆うべき置物の確認不足。

対　策　**事前調査で保護対策が必要な事項を確認する。保護に必要なシート等を準備し、破損防止対策を確実に実施する。**
破損しそうな物は事前に移動する。

事例⑤　５ｍの梯子を用いて高木を剪定した。梯子を樹木に紐で固定していた。梯子から降りる際、通常なら、他の作業員に梯子を支えてもらうようお願いするところだが、大丈夫と思い降りている際、梯子がずれ、バランスを崩し、地面に落下した。着地はしたが、よろけて背面よりこけた際、地面に石があり、背中を強打した。全治約１カ月

原　因　梯子の固定が十分でなかった。降りる時、梯子を支える補助がなかった。一人で大丈夫だと思った。地面の状況把握が出来ていなかった。

対　策　梯子は樹木・地面に確実固定にする。降りる時は支える補助員をつける。動作を急がない。
梯子は斜めにまっすぐ立てる。

事例⑥　雨で濡れていたタイルの上を歩いていた時、足を滑らせ転倒した。地下足袋は履いていた。
右脛複雑骨折　全治約２か月

原　因　タイルの上は滑ることの認識不足。

対　策　**雨天時、濡れた地面、特にタイルの上など作業現場の状況を十分意識した上で、作業を急がない。**
足をかかとから、地面につける。

事例⑦　剪定作業終了後、道路の電柱に脚立を２本立てかけていた。そのうちの１本を車に積むため持ち上げた際、持ち上げた脚立がもう１本の脚立に引っ掛かり、道路中央に向かって倒れ、直進していた車に接触し、車のフロントバンパーを傷つけた。

原　因　電柱に立てかけた脚立は倒れることの認識不足。

対　策　**脚立を電柱に立てかけない。脚立は１本ずつ確実に自動車に積むこと。片づけ作業を急がない。**
脚立を横に積む

「安全会報」平成29年度に発生した事故　除草班

安全✚第一

事例①　会員Ａさんの場合。
草ごみをダンプの荷台に積み込みました。その後、Ａさんはダンプの荷台に上がり、
草ごみを踏み込んでいた時、突然、ダンプカーが動き、Ａさんは荷台から地面に転落した。左膝を負傷。

原　因　Ａさんと運転手との意思疎通が不足していた。荷台に人を乗せ走行するのは危険行為。

対　策　大きな声等で荷台での存在を運転手に伝える。運転手は荷台に人がいる時は車を動かさない。
降りたのを確認ののち走行する。

事例②　会員Ｂさんの場合。
原付バイクで就業場所へ向かう途中、道路の歪にハンドルを取られてバイクごと転倒した。
腰骨圧迫骨折。入院通院。

原　因　バイクのスピードを出しすぎていた。路面状況の認識不足。

対　策　安全な速度で走行する。就業場所には時間の余裕をもって出発する。

事例③　会員Ｃさんの場合。
草刈り機で除草作業をした。作業終了後、作業現場を確認していたところ、事務所のガラスに飛石と思われる
ヒビ割れ（５ミリ程度）を見つけた。防護ネットは使用していた。

原　因　作業前に付近に「窓など割れ物はないか」確認不足

対　策　石が飛ぶ方向を予測すること。施設に近づくとエンジンの回転数を落とすこと。作業を急がずにすること。
防護ネットは刈払い機と障害物の間に立てて進むこと。
防護ネットを十分な枚数、用意する。これで、建物や自動車のガラス面をおおう工夫をする。

事例④　会員Ｄさんの場合。
チェンソーを用いて木の伐採をしていた。作業中、チェンソーが跳ね上がり（キックバック）胸を切った。
３ｃｍ程度縫合した。
原　因　作業中に機体の跳ね返り（キックバック）が発生する可能性の認識不足。
対　策　チェンソーは片手ではなく、両手で持つよう努める。体勢を安定させ、機体をコントロールすること。

事例⑤　会員Ｅさんの場合。
高さ２ｍ程度の段の上にある樹木を伐採するため、脚立で段の上にあがった。その脚立を上に引き上げようとした際、地面に首から、転落した。首筋を極度に痛めた。ヘルメットは着用していた。
原　因　作業現場の危険予知の確認不足。一人で作業をしていた。
対　策　高所作業の場合２人以上で作業を行う。作業現場をよく確認し、必要な安全対策を取ること。
安全帯の着用。脚立、ハシゴを複数用意する。また、高所で危険と判断したら、作業を断る勇気も持つこと。

「安全会報」　【家事援助】関係　安全✚第一　平成３０年５月発行

【対策】

介助作業中、椅子が転倒し、ガラス障子を破損した。	⇒ 周囲にある家具等を事前に十分確認し、事前に移動させておく。
雨天時、外階段で転倒した。	⇒雨の時は、滑りやすいことを意識し、ゆっくり歩く。
訪問先の玄関で、つまづき、転倒した。	⇒玄関先の段差に気をつける。足元の状況を確認し、ゆっくり歩く
自動車者で移動中、直進車と衝突した。	⇒ 安全運転をする。スピードはゆっくり。「止まる」
左折する際、車両をガードレールに接触した。	⇒ 特に左折・右折時は左右を確認する。急がない。
自転車で道路を横断中、原付バイクと衝突した。	⇒ 左右を確認。走ってくるバイク・車にも十分注意。
自動車運転中、交差点で出合い頭に衝突した。	⇒ 特に交差点では、安全が確保できてから発進する。

特に、屋外作業で注意が必要です。

熱中症　⇒　こまめに水分・塩分をとる。休憩は涼しい場所。睡眠不足・疲労は大敵。

蜂　⇒　蜂の脅威から身を守る服装をする。

「松山市シルバー人材センター　安全･適正就業委員会」